

ライフスタイルに対応した海岸整備に関する調査—福岡市近郊の三苦・古賀海岸について

九州産業大学 学生会員 高橋典子
九州産業大学 正会員 奥蘭英明

1.はじめに

現在、経済の停滞にともない人間回復の場として自然と触れ合うことが日々の中で求められるようになってきた。本研究の目的は、三苦海岸、古賀海岸の利用者と地域住民に対するアンケート調査から、多くの人々に求められる海浜の環境整備のあり方を見出そうとするものである。

2.調査内容と方法

1) ビーチ利用者への調査内容

ビーチ利用者を対象に三苦海岸では平成 10 年 7 月 25 日に男性 167 人、女性 109 人、合計 276 人、古賀海岸では平成 11 年 7 月 25 日、8 月 1 日に男性 114 人、女性 85 人、合計 199 人に対してヒヤリング調査を行った。調査内容は利用形態、交通面、ビーチの各施設について等、それぞれ合計 8 項目、15 項目とした。

2) 地域住民への調査内容

三苦 3 丁目、5 丁目、6 丁目の海岸から近い地域から任意に 100 件、古賀海岸から 400m以内の天神 6 丁目、7 丁目の地域から任意に 400 件の家を選択してアンケート用紙を投函し、同封した封筒で返送してもらった。三苦海岸地域住民から男性 27 人、女性 31 人、合計 58 人、古賀海岸地域住民から男性 62 人、女性 58 人、合計 120 人の回答を得た。調査内容は利用形態、ビーチの施設について等、それぞれ合計 10 項目、14 項目とした。

3.ヒヤリング調査結果と考察

図-1,2 は利用者がどこから来たかを示すものである。三苦海岸は福岡市東区が 46.0%、続いてその他の県内が 25.4%と多い。三苦海岸は水質も良く広い砂浜を持っており、知名度が高いためと考えられる。一方、古賀海岸は古賀市内が 47.9%と半数を占めていることが分かった。どちらも海岸が隣接する地域の利用者が多く地域に密接した海岸であると考えられる。

図-3,4 は利用者の交通手段を示すものである。両海岸とも自家用車が圧倒的に多い。ビーチが駅、

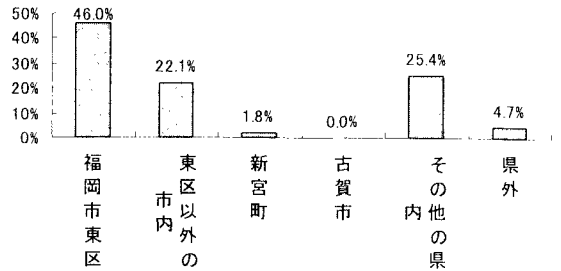


図-1. どこから来たか(三苦)

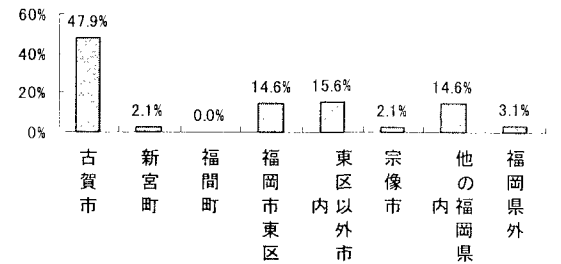


図-2. どこから来たか(古賀)

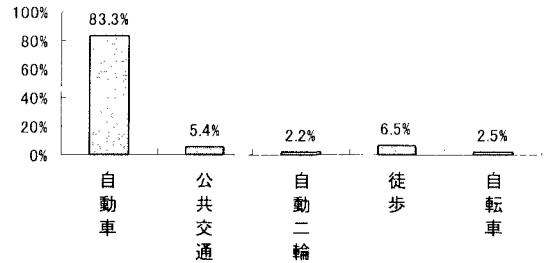


図-3. 交通手段(三苦)

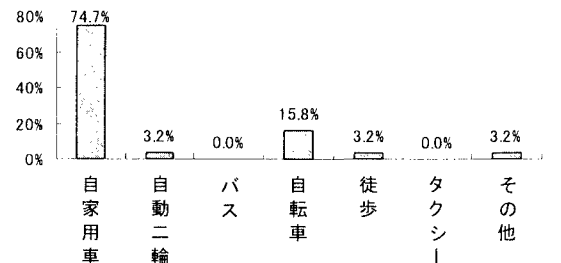


図-4. 交通手段(古賀)

バス停から離れた場所にあるため、公共交通の利用は少ない。

図-5,6 は海水浴以外のビーチの利用目的を複数回答で示したものである。両海岸とも家族サービス、リフレッシュが多い。家族で来た割合に多少の差があるが、夏休み中ということもあり家族サービスが多くなっている。リフレッシュと答えた人は、日常生活の中で溜まったストレスを海に来て自然にふれることによって解消していると思われる。

図-7,8 は三苦、古賀の地域住民の海岸施設評価について示すものである。三苦海岸の地域住民は各施設ともきちんと整備をした方が良いと現状のままで良いとの両極端に分かれている。各施設の整備を望む人はいるが、大多数の人たちは現状のままでよいと思っており、整備することによって今以上に人が集まり自然な状態が崩され海岸を美しく保てなくなると感じていると思われる。一方古賀海岸の地域住民は整備を望む声が非常に多かった。これは、簡易トイレしか整備されておらず当然の結果と言える。しかし、地域住民の中には現状の自然環境の維持を望む声も聞かれた。これは、三苦海岸同様、利用者の増加に伴う住環境と自然環境の悪化を嫌うものと思われる。

4.まとめ

以上、本研究では住宅地に隣接した三苦・古賀の両海岸の利用形態についてヒヤリング調査を実施し、比較検討を行った。その結果、夏の海水浴シーズンに訪れる利用者と地域住民の間には、現状に対する認識、将来への展望が異なっている。三苦、古賀両海岸とも利用者のモラルの向上と地域住民の理解を求め人々に親しまれる海岸整備が必要と考えられる。

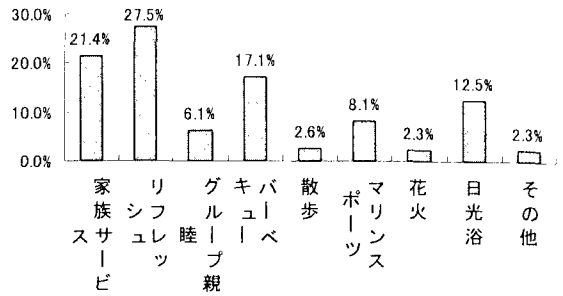


図-5. 利用目的(三苦)

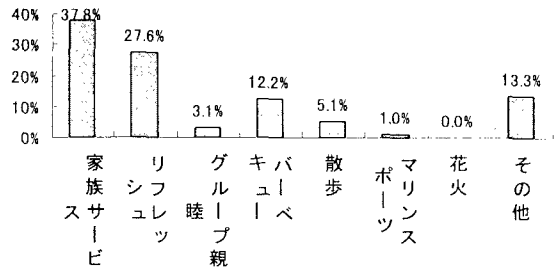


図-6. 利用目的(古賀)

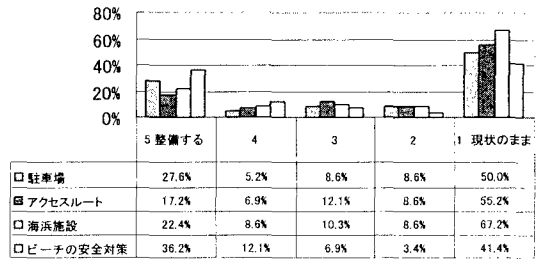


図-7. 海浜施設の評価(三苦地域住民)

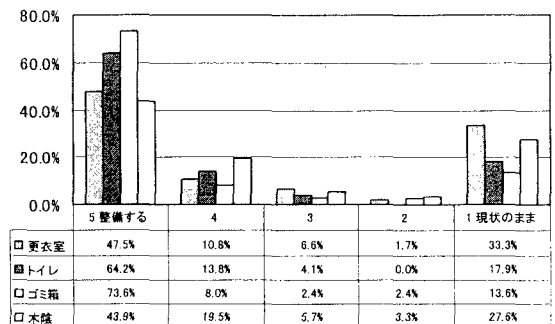


図-8. 海浜施設の評価(古賀地域住民)